



北アフリカ地域ニュース

エジプト：アラブ連盟外相理事会等

(3月4日付現地各紙)

4日付、現地各紙に基づく、3日にカイロで行われたアラブ連盟外相理事会定期会合に関する報道概要は以下のとおり。

1. サ우드・サウジアラビア外相の発言

アラブ諸国間の関係は大幅な改善が見られた。その代表的な例がシリアとサウジアラビアの間の連絡活発化である。またパレスチナ国民対話へのエジプトの努力に敬意を表す。イスラエルの態度は、平和醸成のための機会を損なうものである。パレスチナ復興のためにアラブ諸国は足並みを揃えなければならない。

2. ムーサ・アラブ連盟事務総長の発言

先般のイスラエルによるガザ攻撃などアラブ諸国は多くの困難に直面している。この危機を乗り切るためにアラブ諸国間の団結が必要である。

3. 会合では、(1)スーダン・ダルフル情勢、(2)ソマリア情勢、(3)ジブチ・エリトリア間国境問題、(4)イラン政府高官によるバハレーンの主権と独立を否定する発言、(5)アラブ連盟の財政、行政上の諸問題が討議された。

4. 3日朝には、アラブ平和イニシアティブ・フォローアップ委員会が開催され、(1)これまでのあらゆる平和プロセスを評価し、中東地域の諸問題の解決への機会を探ること、(2)アナポリス会議の結果を進めるための障害となっている問題点を点検すること、(3)今回の協議は、米政権の誕生、米中東特使の派遣の様な新たな国際的状況のもとに今後の平和プロセス進展に関するアラブの立場を明確にすることなどを中心に議論が重ねられた。

5. また同日朝、アラブ連盟平和安全理事会会合が開催され、今後同理事会を中東の諸問題の平和解決のためにいかに活性化していくかの議論が行われた。また、シリア・エジプト・サウジアラビア外相による3者会談が行われた。

6. ヴァルトナーEU委員会委員が同会合に出席し、開会式でスピーチを行った。EUとアラブ連盟は、共同作業をこれから先増やしていくことをうたった覚書に調印した。